

世間解

第四五六号

令和八(二〇二六)年二月

発行 西法寺

念佛もうさるべし

スマホで
読みやすい
横書き版



二月になりました。皆さまには阿弥陀さまのご本願のおはたらきの中、「なん

なんだぶ、なんなんだぶ…。」とお念佛ご相続のことと存じます。

雪の深い一月でした。豊中において、「寒いなあ」だけで済みますが、雪

の多いところはほんとに大変な過酷な日々をお過ごしのことであろうと思ひます。お見舞いしか申せませんが、みなさまお大切になさつていただきたいと存じます。

さて、先月は「未聞の益」ということに少し触れさせていただきました。

善導大師さまの『觀經四帖疏』というお聖教でこのお言葉に遇わせていただいたのであります。改めてご拝讀させていただきますと「未聞の益」というお言葉は

善導大師さまの『法事讚』というお聖教にもありますし、また『法事讚』

には「未聞を聴く」というお言葉もありました。

「今まで聞いたこともない素晴らしい教え」であると解説がなされています。

「未聞の益」とは何でしょう、今まで聞いたこともない…。これは私の中からは決して出てこない、私の経験や能力では決して考へることも知ることも出来ないものということでありましょう。

じつは私が今、「なんなんだぶ、なんなんだぶ…。」とお念佛が出来たり、「なんなんだぶ、何かなあ」などと思えたりすることが、未聞のことなのであります。

私が未聞をお聞かせいただけたその根源は、「お前さんを決して見捨てる」となく、必ず私と同じ覚りをひらかせてみせるよ」という阿弥陀さまのご本願のおはたらきなのであります。

「未聞の益」私が今まで聞いたことない」とこそが私の“いのち”を根底から支えてくださるものなのです。

とご自身のお慶びをお示しくださつておられます。

親鸞聖人のお言葉を何度も何度もご自身でお聞きいただくようにお読みいただければと思います。

私は遇うことができるはずもないものに遇わせてくださる、または遇わせてくださつたおはたらきがあり続けてくださつたのであります。

私は聞くことができるはずもないものをお聞かせくださる、または聞いてみようかと思わせてくださるおはたらきがあり続けてくださつたのであります。先月もお聞かせをいたいたことあります。私が聞いたこともないことに遇わせていたくのは“聞かせていただくこと”の他にはないのあります。

今まで聞いたこともないことは、今まで意識したことでもないです。

へ私の“いのち”的意味と行き先をお考へになつたことがあるでしようか?

お同行、みなさま方の聞法の道場である西法寺を住職としておあずかりしている私はおかげさまで今年の一月で満六十五歳を迎えさせていただきました。

前住職の清觀が臨終を迎えたのが六十五歳でした。お寺をお預かりする者として、何かしらの感慨を覚えます。

本当に、おかげさまで、私は坊守や若院家族に支えられて有り難いことになんとかお念佛の日暮らしをさせていただいております。

その元は、やっぱり阿弥陀さまのご本願のおはたらきなんやなあ…とそんな事を味わうことの出来るお育てをいたいたのだと思つています。

その阿弥陀さまのおはたらきと自分自身の“いのち”的意味と行き先を一緒にお聞かせいただき「未聞の益」にうるおわせていただきましょ。是非、是非、「未聞の益」に遇うために一度、西法寺の御法座にお参りください。合掌

総序（序文）に、親鸞聖人は主著である『顕淨土真実教行証文類』（『教行信証』）の

ここに愚禿釈の親鸞、慶ばしいかな、西蕃・月支の聖典、東夏・日域の師釈に、遇ひがたくしていま遇ふ」とを得たり、聞きがたくしてすでに聞くことを得たり。真宗の教行証を敬信して、ことに如來の恩徳の深きこと

を知んぬ。ここをもつて聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなりと。